慶應義塾 医学部新聞
発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160－8582
東京都新宿区信濃町35
電話（3353）1211 内線64996
会員については会費の
に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　1部20円発行

東医体総合優勝!!

50年ぶりの2連覇！

7部門で優勝という快挙とともに、慶應が第52回東医体総合優勝を取った。8月20日現在、本紙調べ）大学、秋田大学が主管を務めた。本戦は総合ポイント方式で争われ、昨年に続き、第8回、第11回の優勝以来、しばらく総合優勝が無かった。しかし3部、競走部、水泳部、ゴルフ部が連覇を達成した結果である。またテニス部は、一昨年が5位、昨年が2位と着実に力を蓄えてきた。

今年度の慶應は競走部、男子女子、ヨット部、男子ゴルフ部、水泳部、テニス部、馬術部と多数の部門で優勝を果たした。加えて女子競走部は東医体初優勝であり、これで競走部男女ともに総合優勝という東医体史上にも残る快挙となった。

さらに剣道部、女子ゴルフ部も3位入賞と好成績を残した。特に剣道部は個人戦1位・2位、女子ゴルフ部は個人記録1位を勝ち取っており、今後も成長が注目される。

慶應の最長連覇記録は第1～3回の3連覇、連覇記録更新に向け一段と期待が高まる第52回大会となった。

	1位	2位	3位
総合順位	慶應	新潟	山形
陸上(男子)	慶應	新潟	筑波
陸上(女子)	慶應	新潟	筑波
硬式野球	慶應	千葉	昭和
準硬式野球	札幌医科	山形	福島
テニス(男子)	慶應	福島	山梨
テニス(女子)	日本大	山形	筑波
ソフトテニス(男子)	慶應	北海道	山梨
ソフトテニス(女子)	獨協	北海道	札幌
卓球男子	群馬	埼玉医	慶應
卓球女子	女子医	獨協	慶應
バレーボール(男子)	北海道	慶應	日本
バレーボール(女子)	山形	防衛医	慶應
バドミントン(男子)	新潟	防衛医	慶應
バドミントン(女子)	筑波	弘前	岩手医
サッカー	順天堂	新潟	和歌山
バスケットボール(男子)	新潟	北海道	山形
バスケットボール(女子)	横浜市立	聖マリアンナ	女子医
柔道	東海	新潟	秋田・自治
剣道（男子）	弘前	東北	慶應・福島
剣道（女子）	秋田	群馬	東邦・女子医
弓道	東北	自治医	東京
空手道（男子）	弘前	防衛医	慶應
空手道（女子）	新潟	山形	防衛医
水泳	慶應	防衛医大	東京
ヨット	慶應	順天堂	北海道
ボート	慶應	筑波	東京
馬術	慶應	九州	慶應
ハンドボール	慶應	信州	東京
ゴルフ（男子）	慶應	日本	慶應
ゴルフ（女子）	慶應	筑波	慶應
ラグビー	慶應	自治医	順天堂

※暫定順位（8月20日現在）

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●診療時間＝午前9時～午前11時
●電話番号＝3353-1211（大代表）

ヨット部
ヨット部堂々の連覇！団体戦一位、個人戦一位

昨年に引き続き、今年も勝を手にした。個人戦での優勝者である千葉大学の国体メンバーに選ばれた伊賀隆君（5年）が昨年に続き圧倒的な実力をもって國見、中山組が優勝した。

「慶應は去年に引き続き、今年も千葉大学の国体メンバーに選ばれた伊賀隆君（5年）が昨年に続き圧倒的な実力をもって國見、中山組が優勝した。

「慶應は去年に引き続き、今年も千葉大学の国体メンバーに選ばれた伊賀隆君（5年）が昨年に続き圧倒的な実力をもって國見、中山組が優勝した。

合計6レースを行い、その合計ポイントで争うのだが、今年は一位の千葉大学と最終日の最終レースまで7ポイント差という近差まれに見る大接戦の伊賀隆君（5年）が優勝についても、「非常に満足している。一年間、本当に様々な面で苦労しましたが、最終的に優勝でき、最高の終わり方ができたと思っている。」と語ってくれた。連覇のプレッシャーもあり、なかなか思うように練習できない時期もあったが、主将である伊賀君自身が、背負い続けた責任を果たした。

個人優勝した國見艇の勇姿

優勝、V2に湧くヨット部現役・OBたち

メンバーの後輩を毎夜、合宿所から連れ出して優勝するため話し合い、毎日の練習でも声を組み合わせるというように、真の海でも練習しさを増していった。本番ながらの気合で臨む、なお、この新しい試みで見事、東医体連覇の責任を果たした。

慶應ヨット部は他のどの大学よりも練習が多く、真の海でも練習するという。そんな厳しさを増していった。本番ながらの気合で臨む、なお、この新しい試みで見事、東医体連覇の責任を果たした。

競走部
男子女子ともに総合優勝
快挙の8連覇達成

今年度の東医体、競走同着1位になるという白熱した試合を見せた。男子フィールド競技では、走幅跳びで竜崎俊三君（2年）が3位入賞、三（4年）が3位入賞、（6年）が5位入賞、清田康弘君（6年）は砲丸投げで2位入賞、円盤投げでも2位入賞。試合前には総合3位入賞を目標としていた女子競走部、一年生の活躍もあり、女子トラック競技では、4００mで工藤弥実君（1年）が2位入賞、100mハードルで小路絢子君が4位入賞、4×100mリレーでは慶應そうになった。女子フィールド競技では走幅跳びで瀬和貴君が優勝、砲丸投げで吉津亜矢君（1年）が優勝、笹山亜紗子君（4年）が3位。加えて笹山君は槍投げで3位入賞、円盤投げでも2位入賞と好成績を残した。

白熱の4×100mリレー

大会後の集合写真。男子8連覇達成！

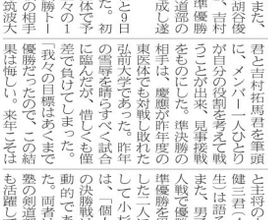
水泳部
快挙5連覇達成
永久杯を手に！

先月号の特集でもお伝えした水泳部だが、今年も、今回の慶應は一人勝ちしてくれる絶対的なエースが存在するわけではできたのは、初めて参加する選手の一人一人がでの力を上げてきたおかげと思います。」と、主将の竹内洋志君（4年）は語る。

「今回の慶應は、2部うちにして、1つの2位を獲得する事ありませんでした。優勝できたのは、初めて参加する選手一人一人が成功体験を積んでいくことにより、慶應水泳部の永久杯を手に収めた。

「今回の勝因は、2部うちにして、1つの2位を獲得する事ありませんでした。優勝できたのは、初めて参加する選手一人一人がでの力を上げてきたおかげと思います。」と、主将の竹内洋志君（4年）は語る。

「今回の慶應は、2部うちにして、1つの2位を獲得する事ありませんでした。優勝できたのは、初めて参加する選手一人一人がでの力を上げてきたおかげと思います。」と、主将の竹内洋志君（4年）は語る。


優勝後、全員での集合写真

馬術部
堂々の総合優勝
優勝杯を奪還!!

馬術部は本年度の東医体、数積競と高い所以である。また、今年は他大学とより交流を深め、慶應全塾大医歯薬連合会の対抗戦も執り行うなど、して戦力アップを図った。日々の鍛錬に加え、このような積極的な努力が実を表して東医体優勝につながったのだろう。

「今回の優勝杯奪還は嬉しいが、来年から再び連覇をめざべく、部員一同、気の緒をしめて練習に励む所存である。」と小笠原君は言う。

少数でありながらも着実に優勝を勝ち取ってくれた選手たちに、これからの更なる躍進を祈願した。

（3年　平本和音）

個人戦1位となった小笠原準君

剣道部
団体戦3位入賞
個人戦1位2位の偉業!!

昨年の東医体では男子団体戦ベスト8だった慶應だが、今年は見事3位入賞を果たした。また、慶應は男子個人の部では胡谷俊樹君（2年）が優勝、吉村拓馬君（2年）が準優勝と、慶應医学部剣道部の歴史に残る偉業を成し遂げた。

慶應は昨年度優勝校の筑波大学に僅差で破れたが、今回は堂々の優勝杯奪還となった。

慶應は馬場馬術団体戦では優勝、障害飛越団体戦では準優勝を成し遂げた。今回の東医体の結果について主将の小笠原君は、「昨年まで部引っ張ってきた先輩方が卒業してしまい、一人一人位でも結果を残すことが出来、誇らしく思う。」と語る。

馬術は馬の頭数が限られているため、練習時間には限りがある。慶應は部員が少ない分、それは逆手の層の薄さにもなり、一人一人位でも結果を残すことが出来、誇らしく思う。」と語る。

馬術は馬の頭数が限られているため、練習時間には限りがある。慶應は部員が少ない分、それは逆手の層の薄さにもなり、一人一人位でも結果を残すことが出来、誇らしく思う。」と語る。

個人優勝を果たした伊吹若君（5年）

表彰式後の集合写真。男子優勝・女子2位の好成績

男子・女子ゴルフ部
男子団体優勝！
女子団体3位！

ゴルフ部は今年も男子団体優勝、女子団体3位の好成績となった。男子部はこれで昨年に続く2連覇。今年度の慶應男子団体優勝スコアは10打差の圧倒的な結果となった。今年の慶應男子団体優勝スコアは10打差の圧倒的な結果となった。今年の慶應男子団体優勝スコアは10打差の圧倒的な結果となった。

女子部は1日ごとに各大学の上位4名名、女子部で計たものが団体の成績となる。今年の慶應男子団体優勝スコアは10打差の圧倒的な結果となった。今年の慶應男子団体優勝スコアは10打差の圧倒的な結果となった。

男子個人5位だった伊賀君（5年）が、今年は個人優勝を達成。加えて杉山和俊君（4年）が8位、箱崎恭平君（4年）が10位に入賞し、女子部も目標である団体戦優勝にこそ一歩及ばなかったものの、個人記録では出中美波君（2年）が個人優勝を果たした。

東医体ゴルフ部門では男子は2日かけて3ラウンドを、女子は最終日に1ラウンドを回る。男子は2日目から1日に開催された。そんな快勝を続けるゴルフ部の強さの秘訣を尋ねてみると、まずは練習量。そして何より先輩方の熱心な指導があったからこそ、試合コースを知り順調な上げることが出来たとともに、オフの日には積極的に光をたり部内結束も強まったという。このような高い志の高い部員が試合経験を積むという好循環が出来ているという。

そんな高い志の下の慶應ゴルフ部の目標は「次の秋・春の大会で絶対優勝したいです。」と意気揚々な言葉。今後もゴルフ部からは目が離せそうだ。

（5年・林侑大朗）

テニス部
ついに掴んだ、悲願の優勝

一昨年はベスト8、昨年は決勝で悔し涙を飲んだ。しかし、今年の慶應は鈴村博史前主将（5年）の「今年こそ優勝を勝ち取ってきます！」との宣言通り、テニス部創部以来の快挙となる優勝を手にした。

今回は山形大学、群馬大学、日本大学、千葉大学、そして決勝では福島大学と対戦した。

窮地に立たされた試合も、「簡単には負けない」という思いの強さで自分たちを奮い立たせ、最後まで諦めない強い気持ちで自分たちを奮い立たせ、最後まで諦めない強い気持ちで自分たちを奮い立たせ、最後まで諦めない強い気持ち